公同通信

2017 年 9 月 30 日　253 号（462 号）

日本基督教団　西宮公同教会月報　〒662－0834　西宮市南昭和町 10-22

TEL　0798-67-4691　FAX　0798-63-4044、Email　koudou@gamma.ocn.ne.jp

http://koudou.jp/　振替　01170-3-4901

To tell the story 151

「家庭文庫あれこれ」

ライラックおはなし文庫

○月○日（土）
ごご 2：00～3：00　本の貸し出し
3：00～3：30　おはなし会

おはなしのろうそくが、ともると
たのしいおはなしのせかいが
やってきます。
おはなしのすきなひと、いらっしゃーい！

と、小さな看板を揚げ、小さな部屋で家庭文庫を初めて 35 年（毎月第 3、4 土曜日、祝日はお休み）。きっかけは、子どもたちの遊びを見ていると、どうも同年齢、しかも同じクラスの子ども同士ばかり、これでは、異年齢のつながりは薄れていくな…と、心配になったこと。そのころ、絵本の勉強会に参加するようになったこともあって、我が家の子どもに読み聞かせていた絵本も並ぶようになり、文庫をすれば、子どもたちの交わりもできるのではないか。そこで、一緒に絵本の勉強会に参加していた Y さんをはじめ、近所の子ども会の世話係をしていたお母さんたち、また、子どもが好き、本が好きという方々に声をかけ、「いいんじゃない！」ということで、始めることになりました。それにはまず、大人が絵本について知りましょう！と、1 年間ほど月 1 回集まり、学習会を持ちました。

1982 年 7 月より、家庭文庫“ライラックおはなし文庫”として始めました。このころは、子どもの人数も多く、30～40 人ほどの子どもたちがやってきました。

文庫の内容は、①2 時～3 時は、本の貸し出し。まず、本を選んでから自由に遊び、借りた本を読む子、絵描きをする子、パズル、お手玉、折り紙など、小さい子どもに本を読んであげる子など、様々。②3 時からは、おはなし会です。詩を読んだり、手遊び、読み聞かせ、部屋を暗くしておはなしのろうそくの灯りをともしてのストーリーテリング。おはなしが終わると、その月の誕生日の子どもが、灯りを消し（これがみんな、やりたくてしょうがない）、おはなし会の終わりです。③本の紹介。以上、この形で始めました。

5 年目ぐらいより、大型紙芝居（模造紙などで手作り）を作るようになり、おはなし会の内容も、手遊び（ペープサート、パネルシアターなど）、大型紙芝居、読み聞かせ、ストーリーテリングの形になり、それは今も続いています。

その間も、月 1 回の学習会も続けながら、他の勉強会にも色々と参加させいただきました。公同文庫でも、当時活動されていた N さんの紹介で、参加しました。あの頃、大阪や、宝塚などで文庫をされていた方々も出席されていて、また、そこから大阪の文庫、宝塚のおはなし会などでも聞かせていただいて楽しい経験でした。

そのうち、小学校の PTA のお便り、「宮っこ」にも紹介され文庫だけでなく、“おはなし配達”にも出掛けるようになりました。（小学校、幼稚園、子ども会、地域の行事、老人会、お母さん同士の子育てグループ、児童館など）

ある幼稚園でのおはなし会のこと、“今から、始めるよ～”の時、なかなか落ち着かないある子どもがいました。ウロウロし始め、先生方も気にされ、何とか落ち着かせようとされましたが、ひとまず「先生、大丈夫です。そのままで…」と、大型紙芝居を始めました。やはり、スキップしながらチョロチョロ…、でも時折、紙芝居の方へ目を向け、そのうち落ち着いてきました。おはなし会が終わると、必ず絵本の紹介（あくまでも大型紙芝居は絵本の導入のため）をします。その時、彼が絵本を見て“あっ！かみしばいとちゃう！これなかった！”　その時の絵本は、「くった　のんだ　わらった－ポーランド民話」（内田莉莎子：再話／佐々木マキ：画、福音館書店）“ちゃんと描いたはずなんだけどなぁ、紙芝居見てみようか…”と、見てみると、おはなし最後の場面、おおかみが地面をけちらした時の土のはねているところが、本当にすっぽり抜けていました。“あー、ごめん。よく見つけてくれたね。ちゃんと、描いておくね。”その時、この幼児期の「子どもの見る力」「聞く力」、神様は本当に素晴らしいものを与えてくださっている。だからこそ、「いい言葉」「いい絵」を届けることの大切さを思ったものでした。

その後、1995 年「阪神淡路大震災」、

我が家も全壊、宝塚の方で避難生活となりました。近所のＹさん宅も大変でしたが、私共が帰ってくるまでご自宅の取り壊しを待ってくださり、文庫の本棚、絵本を置かせていただきました。

1995年4月になったころ、近所の子どもが“おばちゃん、おはなし会、いつ始まるん？”の声で、Ｙさん宅で文庫を始めていただきました。西宮のメンバーたちも、それぞれ大変な中、学校や幼稚園、保育所などからの依頼もあり、“おはなし”の配達を続けさせてくださり、感謝でした。

1995年12月に我が家が完成。Ｙさん宅、解体。

1996年2月より、我が家での文庫再開。

ある土曜日のこと、文庫の常連の子どもたち（3年生）が、学校から帰り、私を見つけると、“おばちゃーん！！ただいま！今から、ごはん食べて、図書館へ行ってくるね。それから、文庫へ行くからねー！”それを聞いた瞬間、思わず私の心の中で“ヤッター！！” 子どもたちが自ら図書館へ…。これが文庫での私の願いでもありました。

その子がお母さんになり、その子どもが文庫の仲間入り。“おばちゃん、止めんといてねー！”

都合により、9年ほど前、学習会を解散。今、Ｙさんの助けを借りて、できる範囲で文庫を続けている状態。

孫娘が、昨年から西宮公同幼稚園でお世話になっております。なかなかじっと、絵本を聞くことが出来なかったのですが、幼稚園で毎日、先生の読み聞かせ、事あるごとに、園長先生、順子先生が絵本を読んでくださっていることの積み重ねでしょう。

幼稚園で借りてきた本を“よんでー！”と、全部読み終えると、“これ、もう1回”を聞けるようになり、“じゃあ、こんどはおばあちゃんのはなし聞く？”“うん。”と寝転んで、私のおはなしも、じっと聞けたのは、驚くやら、嬉しいやらでした。

時々、母親の代わりに幼稚園に迎えに行くことがあるのですが、みんなちゃんと腰かけて、先生の読み聞かせにすっぽり安心して入っている様子が覗え、ほのぼのとした気分にさせて貰っています。

今、文庫では赤ちゃん、幼児、小学生がほんの少し…と、人数も減ってきています。初めて文庫に来た子ども、大人には人見知り、警戒心を持ちますが、子ども同士は不思議ですね。これは、小さい文庫ならではの風景でしょうか。それで、ささやかながらも、もうしばらく文庫を続けてみようと思っています。

おはなしの好きな人、文庫に遊びにいらっしゃいませんか。

（北村　直美）

第3、4土曜日午後2時～
西宮市丸橋町8-82
北村宅

＜報告＞

「鳴門からお座敷がかかり、行ってきました。」

今年の夏は、自分の書いた文章が回りまわって意外なところで目にされ、波紋を呼ぶという体験をした。いきさつは以下の通り。

「公同通信」(月刊)に、付属幼稚園の副園長(牧師夫人)から「何か原稿を」と以前から執筆を頼まれていたのを延び延びにしていたところ、丁度箕面の小学校勤務も終わったので「くまモン司書登場」を投稿した。(2017 年 3 月号)

すると 30 年前に教会学校で子どもたちと一緒に遊んだりしていた S さんが、それを読み、鳴門市の子ども読書活動推進協議会の会長 T さんに講師として呼ぶように働きかけてくれた。T さんと S さんは鳴門市でご近所付き合いをしている主婦同士。同じ西宮に住んでいたこともあり、子育ての先輩である T さんとはツーカーの仲。S さんは現在、鳴門の小学校と中学校の図書館サポーターとして 2 校兼務をしている。

最初に私の自宅に S さんから電話が、次に T さんからも電話がかかり、是非とも鳴門へ来て話をしてほしいとのこと。鳴門市は昨年度に市内の全小中学校に学校図書館サポーター14 名の配置が完了したが、兼務の人や小規模校では一週間に 3 時間勤務というところもあり、まだまだ学校の中でも認知度が低いという。「くまモン司書登場」のレポートを読んで、ぜひ箕面・豊中の学校図書館事情を話してほしいということだった。

何度か、T さんや図書館長とのメールのやり取りで、講演タイトルは「くまモン司書登場」にさせてくれとのことだったが、小学校の体験談だけでなく、学校図書館の理念や「図書館の自由」についても話したいので、あれもこれもと盛り込んだレジュメと資料を用意した。

さて当日は、早朝バイクで出かけ 10 時前には会場の鳴門市立図書館に着き、一息入れてから、事前に依頼していた学校見学に出かけた。

午前中に小学校 2 校を見学させてもらった。最初の学校はサポーター配置 7 年目で、サポーターも熱心な方で、少ない勤務時間の中で図書館を整備している状況が手に取るようにわかった。2 校目は、配置 1 年目でなかなか司書教諭との関係が大変なところで、文学が書名の 50 音配列になっている。絵本ならわかるが教師からは書名の 50 音順が探しやすいということで、まだ著者 50 音順に変更できていないとのことだった。

時代にふり回されるのではない	自分の人生を語ってほしい、
あの時　心を躍らせて生きた	自分の人生を語ってほしい、
後悔に　身をふるわせたこともある	自分の人生を語ってほしい、
笑い　泣き　歯ぎしりをした	自分の人生を語ってほしい
今日　こんな決意をしたという	自分の人生を語ってほしい

案内を買って出てくれたＴさんＳさんらと一緒に昼食をとったあと、いよいよこれからが本番と気合を入れなおした。講演の参加者は学校図書館サポーター13人、協議会のメンバー6 人、小中教諭 2人、幼稚園教諭 3 人、ボランティア 3 人の計 27 人。

「くまモン」エプロンをして登場した私は、最初に岡山での小学校図書館初体験談を話し、子どもたちにとって初めて出会う学校図書館や教職員の対応の重要性を話した。

次に、学校図書館職員制度の現状、学校図書館は何をするところか、資料提供の重要性、知的自由とプライバシー・貸出方式、学校図書館での禁書問題、理想の学校図書館、学校図書館職員は何をすべきかなどを話した。

話した内容は、別紙レジュメに譲るが、事前に内容についてのリクエストとして、①学校司書の現状。　②高校司書の仕事内容、職名、待遇など。　③箕面の学校司書体験について。　④学校図書館の理想的な姿。→これは私が最も重要と考える部分。⑤学校図書館担当者が連携をとっていくためにすべきこと。⑤中学生に、ライトノベル以外の本を読んでもらいたいがどのようにしたら良いか。⑥限られた時間の中で仕事の優先順位は…。などがあった。

私は、箕面・豊中の学校図書館事情を話す中で、どの学校でも「図書の時間」が確立するまでに司書全校配置から長い年月の取り組みがあること。「学校図書館を考える会・近畿」の安達みのり氏が学校図書館の発展は、「教育行政の確固たる方針、現場の司書の頑張り、市民・保護者の応援の三つが必要である。」と言われたことを話し、そのためには学校図書館の働きが市民・保護者に見えるようにすることで、信頼を勝ち取ることが自分たちの仕事の範囲を広げることにつながる。具体的には、学校司書の活動が市の広報誌に取り上げられ市民の目に触れるようにした宝塚の事例などを話した。

また、学校の中での認知度を高めるためには、司書教諭や他の教職員との普段のコミュニケーションを深め、学校図書館が学校教育のあらゆる場面で資料提供を通じてバックアップできる機能があることなどを伝えていく。また、サポーターの勤務時間を増やしてできることを広げていくために学校図書館協議会(SLA)の組織を使って、市議会や市教委に要望書を出すことも考えたらどうか、などと話した。

当初講演は質疑応答も入れ全部で、13:30～15:00 ということだったが、この時間全部を講演にあて、その後 16:00 までを質疑応答にあてることになった。むろん私に異論はない。質疑応答では、中学生にはどんな本を勧めたらよいか、神戸連続児童殺傷事件の被告が書いた『絶歌』がリクエストされたらどう対応したら良いか、仕事の優先順位は何か、などが出た。

出された質問への回答は、私が所属する学校図書館問題研究会(学図研)で学ん

だ中学生の読み物に関する部分がそのまま当てはまるし、問題とされる資料がリクエストされたときの対応は、前西宮東高校司書・土居陽子氏の『完全自殺マニュアル』への対応が、そのまま当てはまる。私はつくづく学図研で学んできて良かったと思った。

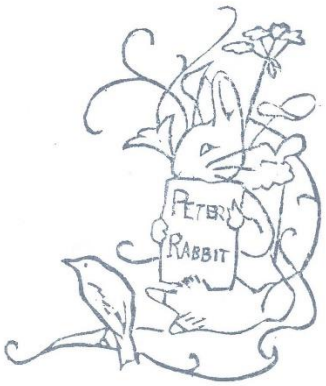
講演会の後は、30 年ぶりに再会した S さんと暫し昔話で盛り上がり、その後 T さんも合流しての情報交換となった。女子大生だった S さんも今や大学生の息子二人のしっかり母さんになっていて、そりゃ私が年金暮らしになるはずだわなと、独り言ちたのでありました。とにかく、学校図書館不毛の地(香川の O さんの弁)の四国で、鳴門市は動き出した。これからの活動を見守りたい。

さて、その日は鳴門のビジネスホテルへ泊まり、翌日はかねてよりチェックしていた大塚国際美術館へ朝一で行ったのでした。

大塚国際美術館は、1998 年、大塚製薬社長の肝いりで作られた西洋絵画を網羅する陶板美術館で、すべてが実物大で作られている。そのスケールたるや最初の展示空間がミケランジェロ作のヴァチカンにあるシスティナ礼拝堂の天井画と壁画である。実物大なので間口 20m、奥行き 40m、高さ 16m という圧倒的な大きさである。天井には「天地創造」、壁には「最後の審判」が陶板に焼き付けられた絵画になっている。本物は、今後は劣化する一方だが、ここにある陶板は千年ぐらいは優にそのままで、歴史的資料の保存という点でも大いに評価される。また、触ることも写真もフラッシュを使用しなければ OK という美術愛好家には嬉しい美術館である。

このほか、世界史の教科書で見た「アレクサンダー・モザイク」、「最後の晩餐」(修復前と修復後のものが一対で展示されている。)、「モナ・リザ」、「ヒマワリ」、「叫び」、「ゲルニカ」など古代から現代まで、およそ千点がすべて実物大なのである。午前中は古代から中世、昼食をはさんで午後は近代から現代を案内付きのコースで見て回り、結局 5 時間も滞在した。それでもまだ見ていないものがあるのだ。うーん恐るべし大塚国際美術館。B3 から 2F まで、フロアごとに年代やテーマ展示があり、一度は必見の美術館ですぞ。わが家の山の神に図録をお土産に買い、後ろ髪を引かれる思いで帰路に就いたのでした。

（二宮　博行）



～どろんこと太陽～２０１７
西宮公同幼稚園の子どもたち

「公同幼稚園との毎日♪」

私が公同幼稚園に見学に来させていただいたきっかけは、私の高校の同級生の母園だったことでした。ちょうど就職活動が始まって、色んな幼稚園を見させて頂いているときに友達が「私が行っていた幼稚園は、いい先生ばっかりだったよ。」と教えてくれて、電話をし見学に来させてもらいました。最初見た時には、まず子どもたちみんなが草履を履いている、青いズボンを着用して走り回っている。他の幼稚園にはないものが見えました。そして、池ヶ谷先生と馬場先生の姿を今でもはっきりと覚えています。子どもたちの笑顔あふれる姿、元気に走り回る姿、泥団子を作っている姿。子どもたちだけでなく先生たちも全力で楽しんでいる姿を見て、その姿に私もここの幼稚園の先生になりたいと思っている自分がいました。

友達から聞いていた話では、縄跳びすごく跳ぶよ。との言葉。赤縄っていうのがあってね～。赤縄？の状態の私でした。公同幼稚園で働かせてもらってから、やっと赤縄の存在が分かりました。1000 回という数字。ただ 1000 回を跳ぶことがもちろんすごいことだけれど、毎日コツコツと跳ぶ。そのあきらめない心が大事なんだよ。と順子先生がおっしゃっていました。毎日コツコツと跳ぶ子どもたちの姿。順子先生の言葉がちゃんと胸の中にあるんだろうなあと、感じています。私も見習って毎日少しずつ跳ぶようにしようと思った 4 月でした。

♪ブドウの畑に木が一本　風は吹くふく　どこからふく～

子どもたちとかけ合ったりもあるわらべ歌。公同幼稚園との出会いのおかげでたくさんのわらべ歌に出会えました。今まで聞いたことのない歌や、どこか聞き覚えのある歌など様々でした。まだまだ未熟者の私なので、わからないところがあると子どもたちが一生懸命に歌ってくれて、いつも助けられています。そして、自然に口ずさんでいる子どもたちを見てわらべ歌のすごさを毎日感じ、口ずさんでついつい歌いたくなるそんな魅力を感じます。

そして何よりも公同幼稚園でさせていただいている貴重な経験。9 月には年長さんで後川での稲刈りを体験させてもらいました。自分たちの手で植えた稲を刈らせて頂き、そして園に持ち帰りそれを脱穀機で脱穀させてもらうという体験。公同幼稚園だからこその「初めて」を子どもと一緒に経験できることを嬉しく思います。

子どもが成長する場所でもある幼稚園ですが、大人も子供と一緒に成長していくそんな幼稚園なんだろうなあと感じます。未熟者の私ですが、これからの公同幼稚園との毎日で私も少しずつ成長していけたらいいなと思っています。

（曽和　采奈）

あんなこと こんなこと

2017年9月3日（日）12時～

津門川川掃除

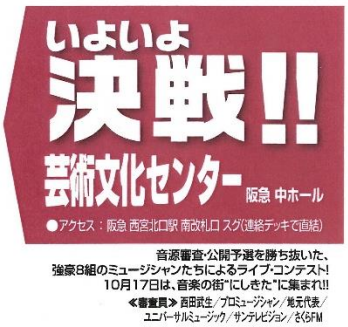
地域を流れる川、津門川。毎月第一日曜日の川の掃除の日でした。子どもたちから、年配の方まで、たくさんの人たちが集まってくださいました。その津門川になんと、鮎が！20～30cm ほどの鮎が何匹も群れて泳いでいたそうです。鮎は、秋に産卵期を迎えるそうですが、1 年で一生を終えるそうです。また、川沿いから覗いてみてください。

2017年9月10日（日）16時～

第 11 回 LALALA にしきたミュージシャンコンテスト予選

西宮公同教会チャペルホール

3日にはアクタ西宮・大学交流センター、10日に公同教会、17日は、阪急西宮ガーデンズホールにて、計3回に渡り予選会を行ってきました。敗者復活戦での1組を加えた計8組のグループが、10月17日（火）17：30～に兵庫県立芸術文化センター・中ホールで行われる“決戦”に進まれます。決戦には、無料整理券が必要ですので、ご希望の方は事務所までお声かけください。



2017年9月15日（金）12時～

福 in ランチ

西宮公同教会　集会室

8月はお休みでした。月に1回ほどの“福 in ランチ”となりましたが、15日は、シソ餃子や冬瓜の味噌汁、後川のカボチャを使った煮物などのメニューで、地域の人たちが集う楽しい時間となりました。サポートスタッフが、2人加わりより体制が整いました。

2017年9月5日（金）9時～

丹波野菜市

アートガレーヂ

長らく、毎月第1、3火曜日の朝9時～アートガレーヂで行われていた「野菜市」ですが、担当の長井さんのご都合で、一旦終了することになりました。

有機、減農薬野菜で、日持ちもすると好評でしたが、終了されるのはとても残念です。長井さん、ご苦労様でした。ありがとうございました。

新たに、8～9品入って1，500円1箱おまかせ便など、違う形で繋がっていけたらと、検討中です。

2017年9月24日（日）9時～

教会学校

篠山市後川（しつかわ）で育てて頂いていたお米の脱穀をしました。少しばかりの体験でしたが、足踏み脱穀機など、見たこともない子どもたちも多い中、稲束をしっかり握り、片足でペダルをこぎながら、刃に米をまんべんなく当てて脱穀をします。なかなか難しい！園長先生と一緒に真剣勝負のお友だちでした。

～あるがままに～

「順子先生の出会い日記」

北海道にすっかり！となった 2017 夏。開拓時代について 3 冊目となった池澤夏樹の「静かな大地」を読みましたが、最後に近づくと、何となく先が見えてきて涙が～。この本は花崎皋平の同名小説から題を借用したもの。次はその本をと手をつけるところです。

1 冊目はかって読んだ「地のはてから」、そして次に開高健の「ロビンソンの末裔」。時代順に追うと、「静かな大地」（池澤）が明治時代、「はて」は大正、そして「ロビンソン」昭和の第二次世界大戦敗戦の直前、上野駅を出発するのにいろんな人が集まってくる場面から始まる。現地では家は陸軍工兵隊が建ててくれる、土地ももらえる、入植者がすぐ植えられるように一町は既墾地となっている。原野だから大変だけれど何でも「給付する」と入植募集要項にあった。そんな書類を見て都の会計課に辞表を出し、拓殖課に願書を出した主人公の語りのようにしてその後の話が進んでいく。青森を出たところ、その船で津軽海峡を移動中にラジオで天皇陛下の「たえがたきをたえ～」の玉音放送を聞くという場面がある。帰ろう！いや船は函館まで行く、また今帰っても東京も大変だろう、とにかく馬鈴薯は豊かにあるというし、一時退避のつもりでしばらくいようではないか、開拓ではなくて集団疎開だからなどという意見にまとめられて先に進んでいくことになった。北海道の位置としては、「明治」のはじめ、話は兵庫の淡路島洲本から。これは「御一新」で宙に浮いた武士階級を体よく北の果てに捨てるのだという思いもある中に北海道移住が決められる。そして船で静内（日高地方）に「大正」は福島の郡山から知床のほうを目指して、そして「昭和」は東京から小樽を経て旭川の先に入植。「地のはてから」は夫のいいなりになってしかしひたすら自分を生きた女性の視点から、開高さんのは戦争が間もなく終わりを迎えることも知らずに、うまい話にのせられて、家財を一切合切処分して持てるだけの鍋釜を持っての列車への乗車。
そして入植してからの一日一日を淡々と書いている。生活に想像を絶するという意味では一番重い。東京の国会に俺たちはどうなるのだと「怒鳴り込み」というか殴り込みにいく場面も出てくる。しかしそう何かが変わっていくわけではなく、あの人たちはその後どうなったのだろうか。最後に「死んではいないが全く生きてもいない」という一行にドキリとさせられる。

「静かな大地」では「人」としての尊厳を問われる。古い時代に学びの機会が与えられ、日高で馬を育てるなどある意味生活としては落ち着いてもいるが、「和人・土人」と人を、区別を越えて差別に徹する人間の醜さは読んでいて堪える。しかし自分の祖父母、父母、特に最後自

死に至った伯父のことを残したいと願っての語りは柔らかく、事の重さの中にも笑顔が見える。

その重さについてはとても書く能力がない。本の最後のほうでアイヌの人々について述べている文がある。「アイヌの生き方、山に獣を追い、野草を摘み、川に魚を求める生きかたは欲を抑えさせ、人を慎ましくする。いくら欲を張っても鹿が来なければしかたがない。だから大きな山の力によって生かしめられる己を知って人は謙虚になる。山に狩る者は畑を耕す者より慎ましく、畑を耕す者は金を貸す者より慎ましい。強い相手があってのことだから、慎ましくならざるを得ない。」

「大地を刻んで利を漁る所業がこのまま栄えはしない」、山に住む熊の神、キムンカムイの声を聞いたという、人の心に多くのものを残した「伯父」。我を忘れて邁進するのではなく理解ある「他者」と向き合うことで、自分を見つめ直していく、解説の中の言葉である。

9 月の終わりから大学の後期が始まるのを前にして保育内容「言葉」や「表現」の授業についても考えさせられています。若い方々に何を届けられるでしょうか。

「こうぞう版行動報告書」

月 2～3 回程度しか出かけられないので、外出用車いすはタイヤの空気圧が減っていることがあります。決まって 1 階のエントランスまで行くと気がつきます。家に帰っても空気入れはありますが、西宮公同教会の事務所に行けば空気入れは借りることができるので立ち寄ります。事務所に立ち寄ると、次々に懐かしい方々に会えるだけでも嬉しいです。

さて、その空気入れのバルブですが作られる国とか地域によって形状がかわります。自分の車いすのタイヤはアメリカ製なので、米式バルブが採用されています。ちなみに日本では英式バルブです。あと仏式のとで計 3 種類あります。

（下平　浩三）

日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈祷会	毎月 1 日午前 6 時 30 分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前 9 時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前 10 時 45 分から	於：西宮公同教会集会室
聖書研究祈祷会	毎週第 1・3 水曜日午後 7 時から	於：西宮公同教会集会室
読書会	毎週第 2・4 水曜日午後 7 時から	於：西宮公同教会集会室

（早天祈祷会、聖書研究祈祷会、読書会は、2016 年 4 月よりしばらくお休みしています。）

～♪ぼくのみる空ときみのみる空はつながっているから～

「アメリカでも奮闘しています」

毎年、祝日を含めた金曜日から月曜日までの 9 月初めの 4 日間、教会のファミリーキャンプが開催されます。「ファミリー」と言っても家族単位の意味合いではなく、教会全体が一つのファミリーなんだという意味合いが込められている、懇親が目的のキャンプです。

私たち家族も参加してきました。こちらにきて 3 度目の参加となります。ほとんど英語部の方々が参加されますが、今年は参加者約 100 名のうち、10 人が日本人の参加でした。4 日間、朝のラジオ体操と食事、夜のキャンプファイヤーの集まりの時間以外は何も決められていません。近くの湖に釣りに行ってもよし、キャンプ場内のプールで泳いでもよし、いくつか準備されているクラフト（T シャツ染やスライム作り、その他工作がいつくも用意されていました）をしてもよし、寝てもよし、食べてもよし、とにかく自由行動です。

何十年も続けられているキャンプですので、ウェスレーの人たちが釣りをする場所にある大きな岩をみんな「ウェスレーロック」と呼んでいて、その周りで釣りをしています。今年はベテランのメンバーの方にお誘いいただいて、私はボートの上から釣りをしました。2 時間ボートの上で粘り、3 匹のニジマスを釣り上げることができました！私は教会のメンバーとボートに乗りましたが、子どもと夫は岸から釣りを楽しみました。

のんびりと自然を楽しみ、釣った魚を食べ、楽しくキャンプファイヤーを囲み、また普段は話さない人とも話をし、大人も子どももそれぞれの時間をそれぞれの方法で楽しむことができました。

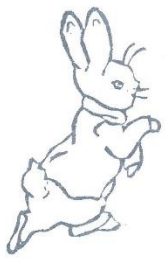
子どもたちは、4 ヶ月前にアメリカに移住してきた新しい日本のメンバーのお子さんたちと一緒に自然の中で大いに盛り上がっていました。私の娘は 8 歳、息子は 6 歳です。新しいお友達は、12 歳と 8 歳の男の子でした。アメリカに移住してきたばかりで、英語の壁などに日常的にストレスを抱えていた彼らも、日本語が通じるお友達と過ごせる時間がとても楽しかったようで、性別や年齢など関係なしに一緒に走り回っていました。2 日目から彼らは自然の中で「秘密基地」を見つけたと言い、誰にも知らせないようにしていました。ですが当然のことながら親は彼らの居場所を知っておかないといけないので、遠くから見るという条件で秘密基地を案内してもらいました。

小川が流れる辺りにとってもいい場所を確保していて、葉っぱの玄関をくぐって入ると、自分たちで持ち込んだイスが置かれ、テーブルらしきものが置かれ、ジュースのボトルが小川で冷やされていて、カエルを捕まえてペットにし、前日クラフトでもらったモールで木が飾り付けられていました。そしてとても大きく

て長い松ぼっくりにモールを絡めて玄関の飾りにまでされていました。子どもたちの想像力と楽しむことへの惜しみない努力と発想に仰天させられました。大人が教える必要は何もなく、子どもたちだけで話し合い、案を出し合い、一緒に何かを作ったり、楽しいことを考えたり、どうやったらもっと面白くなるのかを考えていて、自分の子どもの頃を少し思い出したりもしました。いつもだと、子どもたちに全てを教えないといけないと思い込み、「あれしなさい、これしなさい」「これはしたのか、こうした方がいい」などと口うるさく伝えていますが、彼らが自分でいろんなことを考え、生み出すことができることを忘れていたように感じました。

キャンプが終わりに差し掛かった 3 日目の夕方に雨が急に振り出した時、誰もがその「秘密基地」の心配をし、それぞれの場所からかけつけて秘密基地にあるものを雨から避難させに行った時には、なんだかとても温かい気持ちになりました。

（山本　知恵）



名護ぬ七曲(60)

沖縄の文化 2　貝塚時代

前回より沖縄の文化史について学びが始まりました。旧石器時代から現代まで網羅するつもりです。今日はその第二回目、「貝塚時代」です。「本土」の「日本史」で言うところの縄文時代から平安時代の部分に当たります。何れにしてもかなり昔のことなので、まだよく分かっていないことも沢山あるようですが、そこは想像力を働かせて補って参りたいと思います。では参りましょうね。

＊＊＊

【旧石器時代から貝塚時代へ】早速ですが、旧石器時代と貝塚時代の間に約 5000 年間の「空白時代」という謎の時代があるそうです。ギリシャで言うところのミケーネ時代とアーカイック期の間のような感じかなと思ったけど、あっちはどちらかと言うと「暗黒時代」と言われています。「空白」と「暗黒」ではかなり印象が異なるのですけれども、どちらも「まだよく分かっていない時代」という意味では同じと言えるのではないかと思います。

【イノー】沖縄には珊瑚礁で形成される「イノー」と呼ばれる海の浅瀬があります。沢山の大小の窪みがあって、引き潮の時にはそこに取り残された生き物たちを間近で観察することが出来ます。目の下 4、

教会の火曜日	10 時から 12 時	於：西宮公同教会集会室
第 1 火曜日	わいわいお茶会	
第 2 火曜日	ゆっくりと聖書を読んでみませんか	
第 3 火曜日	読書会	
第 4 火曜日	社会のこと、世界のこと	

50 ㎝もあろうような魚が目の前をススッと通り過ぎて行くこともあるのですが、獲るってなればやっぱり貝の方がダンゼン楽。素早い魚を効率よく獲るための合理的な漁具が開発されるまでは、みんな貝を沢山獲って食べてたのでしょうね。

【貝塚文化】「本土」が稲の栽培に本格的に取り組み始めた頃、沖縄はまだまだ貝塚時代が続きます。採取・狩猟による食料調達が「本土」より比較的安定的に行われていたということを意味しているのか、それともただ単に稲作技術が伝わるのが遅かっただけなのか、分からないのですけれども、いずれにしても少なくとも 12 世紀頃まではそれでやっていけてたということです。貝塚時代は早期・前期・中期・後期に区分されますが、この間、沖縄には縄文文化と似て非なる、これまた独自の文化が生み出され、また変化を遂げてまいります。その基本的特徴の一つが貝。貝殻を使った装飾、道具の製作ですね、沢山ありますからね。

【貝の道】実際は貝殻だけでなく、動物の骨なども使われていたようなんですけれども、装身具や道具、生活用品にいたるまで何かと海洋材料が多く用いられているのが沖縄貝塚文化の特徴のようです。独自とはいえ貝の文化は沖縄で始まり沖縄から世界に広がっていったわけではありません。元々はフィリピンなど南洋から伝わって来たものです。それが沖縄を介して九州へ、九州から瀬戸内海を通って近畿地方へ、或いは玄界灘側から日本海沿岸地方へと伝わって行きました。これを「貝の道」と言うそうです。当然船ですよね。そこが偉いと思う。どんな船だったのか知りませんが、エンジンも付いてないような、そんな風まかせで行こうなんて、絶対無理って私だったら思うと思う。

【貝の文化の衰退】貝の文化もやがて衰退してゆきます。それを加速させたのはやはり金属加工技術の伝来。「本土」から青銅器が伝わってまいりますと、やっぱり新しい物には人々の関心も寄せられてまいりますから、貝は次第に時代遅れとなってしまいます。ただし貝殻工芸の新しい技術につては更なる発展を見せます。代表的な工芸品としては螺鈿。今でも螺鈿のインレイなどをあしらった楽器とか仏具とか食器とか、やっぱ上等ですよね、高くて買えないけど。

＊＊＊

想像でしかありませんが、石や貝殻が使われてた頃ははまだ比較的平和だったかもって思います。青銅は石や貝に比べて加工しやすく丈夫な一方、使い方によっては強力な殺傷力をも持ち合わせることになります。青銅よりも鉄、鉄よりも鋼鉄と、どんどん武器も威力を増し、今や頑丈で軽量な合金や複合材まで開発されあらゆる兵器の材料として使われています。それに比べて貝殻ってなかなかそこまで強力な兵器にはなりにくいような気がするのですが、どうでしょう。投げるとか？

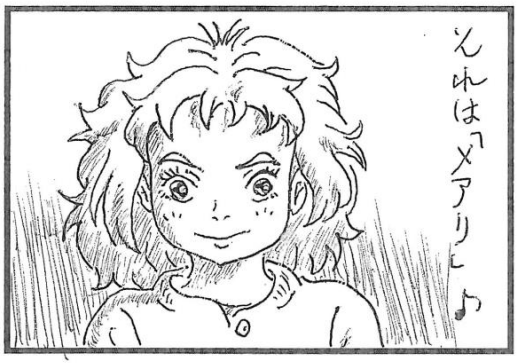
（羽柴　禎）

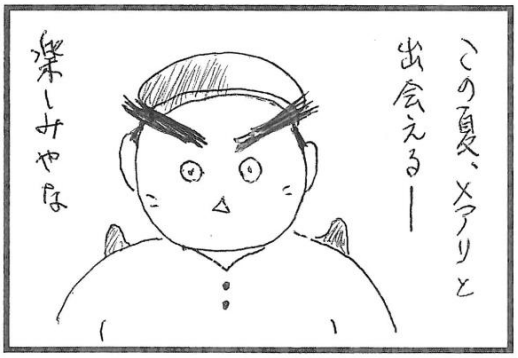
晴れのち福ちゃん　さちお画

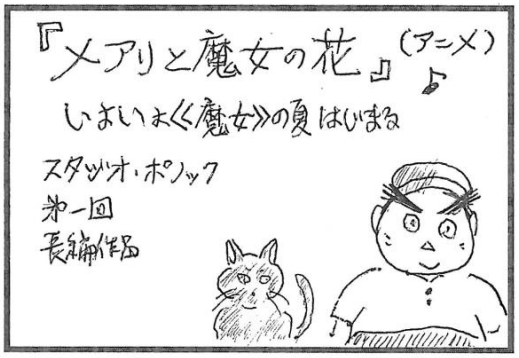
それって・・・

晴れのち福ちゃん　さちお画

夏の楽しみ







津門川 川そうじ

みなさんの参加協力をお待ちしています

10月1日(日)

日時・毎月第1日曜　昼10時集合
（雨天の場合は、第2日陽）

集合場所・西宮公同幼稚園前

主催：にしきた商店街・津門川の自然を守る会
協力：甲風園3丁目自治会、
西宮公同教会教会学校、西宮公同幼稚園

日　時：2017 年 10 月 11 日（水）10 時～12 時
場　所：絵本の並ぶ パスタ&カフェ SHIOSAI
参加費：1,000 円（お茶代、材料費込み）
申込方法：西宮公同教会事務所まで（先着 12 名様）

篠山市後川の澄んだ空気と水、寒暖の差、
そして子どもたちが見守った、2017年度の新米をお届けします。

白米　5kg　1，900円

玄米　5kg　1，650円

御入用の方は、事務所までお声かけください。

～つとがわ・あれこれ～

沖縄、那覇地裁で米軍辺野古基地建設反対の座り込みなどで逮捕起訴された人たちの裁判が行われています。9 月 25 日に山城博治さんと稲葉博さんの溝口防衛局職員に対する反対尋問の裁判を傍聴しました。

この裁判は、いくつかの点で裁判所の対応、訴訟指揮が公正さを欠いています。

1、那覇地裁は敷地内に 50 台を超える駐車場が用意されていますが、この裁判に関しては、門を閉ざし車両は入ることも駐車することも出来なくしています。
2、約 30 枚の傍聴券の配布は、広い敷地にもかかわらず、拘置所を挟んだ公園に配布のための特別の場所を設け、多数（福岡から派遣要請したとされる）の裁判職員を配置しています。（傍聴希望者は、9 月 25 日の場合は 40 人弱）。
3、証人に立つ防衛局職員は「個人のプライバシーを守る！」という理由で、傍聴人席は見えないよう“衝立”で囲まれ、声だけが聞こえる。

そんな、物々しい裁判の雰囲気で実施されるのですが、起訴事実は山城博治さんの場合、座り込みをしている人たちがゲート前にコンクリートでロックを積ませたこと、稲葉博さんの場合は、それを計画・準備をしたとされる「威力業務妨害罪」です。キャンプシュワブの辺野古新米軍基地建設反対の座り込みは、参加した 2015 年 2 月ごろは道路に直接座り込んでいました。長時間、地べたで座り込むのは大変ということで、野外活動（キャンプなど）で使う簡易折り畳み椅子を持参する人が、少しずつ増えて、大小のそれが数十個に増えることになりました。2015 年のころは、数十人だった座り込みの人が、100 人を超えるようになるころ、折り畳み椅子では足らず、ゲート前に、コンクリートブロックを並べ、その上に“足場板”を置く“イス”が加わることになりました。座り込みの人が、100 人から、200～500 と増えるに従い、コンクリートブロック、足場板のイスの数もうんと増えることになりました。

たぶん、2016 年春頃だった記憶していますが、座り込みの人が少なかった時に、そのコンクリートブロックが座り込みの人たちの“仲間”としてそこに置かれることになりました。座り込んでいる人たちは、工事車両が来るたびに“規制”の合図で排除されるのですが、コンクリートブロックも座り込んでいる人たち同様“規制・排除”されていました。

このことが、約 10 か月後“威力業務妨害”として逮捕・起訴されることになったのが、山城博治さん、稲葉博さんの裁判です。

この裁判で、更に別に訴訟指揮が強引に思えるのが、被告側の証人申請の肝心の部分が認められないことです。9 月 25 日の裁判でも、この事件が沖縄で起こっていること、そして「事件の犯人」とされる人たちの動機について沖縄の置かれている歴史的状況を証言する証人の申請が裁判所によって却下されました。却下の理由を弁護士が問いましたが、裁判長は理由についても一切語りませんでした。「必要なしと認めます！」の一言でした。

9 月 26 日に「裁判」になっている「事件」の現場である辺野古新米軍基地建設反対の座り込みに参加しました。午前 8 時～午後 1 時ぐらいの間でしたが、都合 2 回にわたって「規制」「排除」されることになりましたが、その間、ゲート前にコンクリートブロックを並べ足場板を置くのを手伝ったりしました。「激しく座り込もう！」と声をかけ、既に 1 回の逮捕、拘束歴のある元高校教師が、山原（やんばる）の自然に詳しい伊波義安さん（NPO 法人奥間川流域保護基金代表）が、辺野古の座り込みのことで、ご自分の理解を話して下さいました。「ここで譲らずに闘っている平和への願いは、沖縄、東アジアそして世界の平和への願いであり、平和こそがこれからの未来を生きる子どもたちへの贈り物なのだから」と、繰り返し話す沖縄の人たちの一人なのです。

（K）

居酒屋をやっていると色んな事に出逢います。

①今までで一番の最低金額のお客様。開店間もない頃、女子学生風の 4 人が入ってきて、お銚子を 1 本の注文、それを 4 人で 1 時間ぐらいかけて、それも黙って呑み、そして帰って行かれました。それからは、必ず 1 人ワンドリンク制に。
②2 人連れの女性のお客様。5 時のオープン時間と同時に入店、それからラストの時間までずーっと飲んで、食べて。ちなみに御会計は、10,000 円を少し超えたぐらいでした。
③1 グループ、最高の金額のお客様。3 人で、なんと 57,000 円！これは、未だにやぶられていません。
④最近の最低金額。4 名様の予約で、合計が 5,700 円でした。
⑤パーティで、今までにお店に入った最高の人数。22 席中、36 名！時間は、昼の 2 時から夜の 9 時までした。
⑥飲み放題プランでのある男性。ビールジョッキをひたすら飲み続け、何と 18 杯。かなり、ご酩酊の様子でした。
⑦変わったところでは、夜 10 時からの来店。焼きそばを注文され、ドリンクの注文はなく、お水のみ。

ちなみに、お支払いは、クレジットカード払いでした。

長年やっていると、色んな事があります。ちなみに、にしきた地区で、居酒屋1号店は、「ふじや」さんです。場所は、今のケンタッキー・フライド・チキンのところ。今では想像も出来ないほどですが、20席も満たないような小さなお店で、6〜7回転したそうです。

(Y)

結婚前後の働いていた頃に使っていたメーカーの手帳を、また来年1月から使うために先日、購入しました。昔に比べて、サイズや週の表示などの違う種類もたくさん増えていました。やっぱりスタンダードなA6サイズのオリジナルタイプのものを選びました。カバーもかなりのバリエーションがあり、選ぶにも少し時間がかかりましたが、1年間使いますし、カバーは何年かのお付き合い。楽しんで選びました。1日1ページと、たっぷり書けるのが特徴で、180度パタンと開く糸かがり製本で使いやすく、薄くてじょうぶな用紙で図や絵も描きやすいし、ベースの方眼。どれも、うれしいポイントです。

前年の動きも比較できるよう活用する予定で、とても楽しみです。昔は、毎日の一言日記であったり、シールをベタベタと貼りまくり、ノート作りのように使っていました。

さて、20歳代とは違う40歳代後半ですが、記録にもなるような手帳になるかな…。

(K)

茨城に住んで1年が経ちました。未知の場所での新しいスタートに初めは不安でしたが、住んでみると新しい発見が嬉しくて、今では大好きな場所となりました。毎年9月の連休に行われる石岡のおまつり。昨年は、おまつりの次の日に引っ越してきたので残念ながら見れず。来年は絶対！と思っていたのですが、里帰り出産のために7月から実家に帰りました。約2ヵ月半過ごし、もうすぐ2ヵ月になる娘は早くも飛行機デビューをして、茨城へと帰ってきました。石岡のおまつりの1週間後でした。来年こそは、1歳になった娘を連れて、おまつりデビューをしたい！！と、1年後を楽しみにしています。

(C)

かっての仲間が横浜からお菓子を送ってくれた。「おいしくないものは送りません！」とのこと。これには深い意味が。人にものを届ける時には「大発見！」「これお勧め！」「ねえ、おいしいから食べてみて」「ちょっと一口！」と言っています。「お口に合うかどうかわかりませんが」くらいはいいとして「うまく作れてないかもしれないけれど」などではなく、自画自賛「おいしいでしょ」って喜び合うのが大事と以前からも話していたものです。それで絶対においしいですからとの保証付きでやってきた「横浜馬車道ミルフィユ」。いやあ退職されて10年になるのに心に残していてくれたことばがあるんですね。

そんなお届け物に元気を貰い、人との応答の大切さをあらためて感じたり。で、今ちょっと凝っていること、子どもたちが茶の葉を摘み、さまざまな工程を経て公同のお茶になっている篠山後川のお茶。摘む時の子どもとの相互のことばのやりとりもさることながら、「おれたちお茶も作ってるんやで、年長は忙しいな、こんなに年長が忙しいとは思ってなかった」のことばに苦笑。しかしさまざまな幼から老までの温かい思いに働きに応えたい。そこで最近凝っていること。いかにそのお茶を美味しく淹れるかです。最初の社会人スタート（銀行！）で教えられたこと、朝と3時のお茶。決まったコップにその人に合わせた濃さと量、温度など。最後には明日に備えて洗い物をして帰る。「三つ子の魂百まで」というけれどほんとにそうですね。お茶好きでもありますが、お茶については！です。来客の折に最初に出したお茶がなくなったなと思ったら、次は？気が付いたらコーヒーが入っていた、などなどの応対に感心してくれた友人がいました。そして食事の前後ではお茶が違うことは外食の折にお店の配慮に教えられた。よい蕎麦屋は蕎麦の香りを奪う濃い緑茶は先には出さないなどなども。

少し工夫して思いを込めて、うんいける！と思った後川のお茶の準備をした日。「今日のお茶おいしいね」の何気ない声にうれしくなった9月です。

(J)

カット（A・T）

政治・宗教思想研究会／関西神学塾

《今後の講義予定》

10月13日（金）勝村弘也先生「申命記史書を読む（52）」
10月20日（金）岩野祐介先生「内村鑑三（45）　内村鑑三を読む」
10月22日（日）午後2時〜4時　森　元斎先生特別講義
10月27日（金）森　宣雄先生「日本と沖縄の民衆神学（4）」